京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐべからず

[illegible]
仁川支局
東京支局 東京市京橋區南佐柄木町[illegible]番地

寄書

スカンヂナビヤ一年間の見聞（六）

在瑞典ストックホルム 三浦彌五郎

一、敢爲の青年は北米移住　ストックホルムにても六月十五日より七月末迄は市街の電燈瓦斯燈を點せざる規定なれども夏期の長きは以て悉く冬期の不利を償ふに足らざるが故に親の脛許り噛り居ることを潔とせざる敢爲の青年輩は出で、北米に渡りて事業を求めて當國人の正直且つ勤勉なる上に清潔を好むの良習慣は北米に於て大に好評を博し其の言語も英語と相類似するが故に饒り勞せずして自から同化するに至る、然るに翻て瑞典本土開發の着眼點より云ふときは女許り遺に殘りて多數の少壯敢爲の青年の遠く北米に移住して再び歸り來らざるを以て當局者が成るべく本國を離れしめざるの工夫を講ずるは固より其處なりとす、前總理大臣リンドマン氏の演說の一節に曰はく國家發展の方法に二あり一は社會的方法にして一は經濟的方法なり然れども社會的發展を謀るが爲めには先づ國富を增進するを要す而して國富の增進は主として工業の發達に待たざるべからず、吾人は須らく工業の發達を謀り國民に安全なる生活の途を得せしめ以て群を成して外國に移住するを防がざるべからず、是れ實に瑞典の國家的死活問題なり云々、瑞典の如き民主的自由の國に在りては一片の法令を以て外國移住を禁制するを許さず必ずや生活狀態の改善に依りて之を防がざるべからず、當局者の苦心察すべきなり

一、外國人の居住許可主義　次に瑞典に外國人の少なきは是亦著るしき一現象たりとす同國の北方に僻在して風土の來住に適せざるは幾分か其の原因を爲すに相違なきも主たる理由は要する に外國人を入れざるの方針を執るが爲めなり其の主義に曰はく瑞典國の如き人口稀薄にして兵力の多からざる國に於て濫りに外國人を入るゝは宜しからず、濫りに外國人を入るゝときは經濟上社會上より延ひて政治上に及び遂に主客顚倒の惡狀態を馴致するに至ると故に瑞典の規定に依れば外國人にして例へばストックホルム、ギューテボルク其の他の地方にて商業を營まんと欲せば政府の許可を要す、土地其の他不動產を獲得するには勅許を要す、內外人の納稅額は必ずしも同一ならず、其の他製糸業、鑛業、漁業等を外國人に許さゞるは申す迄もなし

一、酒類販賣と制限　日曜祭日には店舗は皆悉く閉店せしめ料理店カッフェーの類は午前十一時より午後一時迄及午後六時より同七時迄は之を閉鎖せしめ何れの日と雖も夜十二時以後の營業を許さず、麥酒は格別なれどもアルコール分の強き酒類はゴッタンブルグ、システムと稱する一種の節酒組織によりて其の販賣店及販賣分量を制限し居るなり不慣なる旅行外人等に取りては不快不便を感ずること少なからず往々不平を鳴らす者ありと雖も瑞典當局者は毫も頓着せざるなり

●京城の判任官

金衣公子

◎野蠻人が金石銀の光彩の美しいものを好む如に殖民地の人は派手な衣服を着たがり金の指輪を嵌めたかる殊に女は著しく目を惹く京城の巷を歩いてみると官舍は云ふまでない朝鮮人同樣に溫突の奧に潜んでゐる女合まで胸が惡くなる樣な姿態を見る藝妓と見違ふ奧樣や令孃と奧樣風を眞似る藝妓高等女中然ふした虛榮心の猛烈な女性のゾロ〳〵と練り行く町は決して風儀の宜しい處だとは謂はれない如何に彼女等が俗惡なる趣好を滿たさんが爲めに年にも恥ぢず相應しからぬ縞柄を好むかよ指の自由を失ふ迄に指輪を箝めたる多くの婦人が徘徊するかよ、殖民地には然ふした傾向は免がれぬものであらうかソレ程に成上り者とは華美に憧憬がれ奢侈に耽りたいものであらうか私は官吏の爲めに生活する市民の多くが少し質實な生活を營む日を速かに見たく意ふ

◎餘儀ない用事があつてケイ君を私宅に訪問したことがある華かな電燈の光が微醉の顏を照らして鼻の先には脂肪が浮いてるイャ……と云つた眼には金緣の眼鏡が輝く派手姿のヒステリカルな顏して細君現はれてロンドレスを薦める暫時すると君は何れが好きだねと云つてベルモットとウイスキーの瓶を運ばせた官舍が無いので態々家にゐるが二十五圓取られるよソレに妻がね病氣ばかりしてゐるんで閉口する……机上の金側時計をパチッと音させて首肯づいたケイ君は〇〇〇の會計係りで判任官四級だ私は內地の郡長や事務官などが氣の毒に思はれた百姓さんを憐れますにはゐられなかつた

●京城新春句抄

俳句

野崎小蟹選

◎明太の子　歲時記にこそなけれ、鮮土に於ける俳人たるものゆるがせにすべきやわと諸氏に切望したり　◎初鵲

明太の子や溫突の松の內　烏堂
初鵲に墨氷る試筆したるぞな
桃の垂枝明太の子に伐る言へり　目池
雪まろき寄生木やかささぎの
明太の子や長箸に撰り上げて　不考郞
初鵲や溫突に國旗見る田廣う
夕市に見し明太の子や霰　法蘇
出門の石落すも初鵲の空
明太の子に幕酒三杯傾けぬ　湖東
初鵲や日麗かに右左り
明太の子や目出けり松の內　子角
初鵲の聲も豐かや今朝の春
胡地春の夜も更ぬ明太の子に　梅枝
領土の春明太の子も時めきて　靜軒
朝の灯に供物配せばかささぎ鳴く〳〵
明太の子贈れば醉翁伯の笑み　小蟹
明太の子や酒や待袋肥ゆらんに
かささぎは草家に初鳥田に下りて
かささぎや舊王城は荒寥と
切火打つ音に啼き初むかささぎの
食積や明太の子に俳味あり

外事一束

▲布哇　耕主組合委員會を開き今春より日本勞働者に月二弗の增給を爲すに決す
▲佛國　新內閣政綱宣言書を起草して佛國が未曾有の鞏固を來せる佛露同盟
▲英國　其他諸國との交情に對し益々忠實維持と共に海陸軍維持の要を述ぶ
▲探木　公司昨年の成績極めて優良にして總益金十八萬餘圓に達したりといへり
▲倫敦　公民大會政府が露國の波斯[illegible]食的態度を寬容し居るを非議したりと
▲特赦　問題に關し皇帝と意見を異にすとて西班牙內閣總辭職に決したりと
▲墺匈　國皇帝御名代サルウートル公十五日駐墺伊國大使ア氏を訪問したり
▲獨逸　諸新聞更迭に依り外交政策に毫も變調なけんと佛國新內閣を歡迎す

梁川庄八

小金井蘆洲演

第八十二回

身延を梁川庄八同伴で下山を致しました勇吉一行は、庄八に別れて若王子へ立歸りました、梁川は甲府柳町三桝屋喜平次へ宿を定めた、翌日午後三時少し前と思ふ頃までは、何處へも行かづ宿屋に居りましたが、軈て主人の喜平次を呼んで 庄『主人 主『へイ 庄『是れから若王子の新町まで行て來やうと思ふがな 主『へイ 庄『お前の家の履物を一足借受けたい 主『畏りました 庄『草履が宜しいな 主『へイ手前共に雪駄の大きいのがございます、旦那樣は御足が大きく在しやいますから…… 庄『雪駄なら尚ほ宜しい、併し何なら誂めても宜しい 主『そりやアむだでございます、御穿き惡うございませうが、何うかお召なすつて……、今晩は御歸樣でございますか 庄『ハ、次第によれば若王子に緣家が有るから一泊するかも知れぬ此荷物は一切お前に預けて置くからな 主『委細承知致しました』そこで庄八は振擔げた荷物を預けて立出で日の暮方若王子新町の和泉屋と云ふ料理屋の前に來て見ると、間口は廣からねど奧行長くなほ外にも、隱座敷が多くあらうと思はる、家の建方即席御料理……和泉屋と云ふ行燈が下つて居ります、庄八スーッと軒下に這入る 女『被入しやいまし 庄『やあ大分靜かだね 店の者『エーもう此節は霜枯れでございますから 庄『ア、それは然うと誰か來て居りませんか 若『エー誰方もお見ねになりませぬ、那の近藤樣や齋藤樣や永山樣のお組でございますか 庄『ア、爾うぢや近藤も齋藤も皆乃公の同勤の者ぢや、併し乃公は此地には始めて、頓と是れまでは當用に迫られて、一夜の愉快も取ることが出來んであつたが漸々まあ少し身体に自由が出來たからそこで今晚當家の厄介に爲りに參つたのだ 若『はい左樣でございますか難有存じます [illegible] ございます 庄『マア兎も角も一杯飲んで[illegible]で一つ勇氣を附けやう、夫れから緩くりお前に話を爲やうから、まあ早く酒や肴を云付けて呉れ 女『お肴は 庄『見繕ひで宜しい』と云ふから軈て女中は勝手に之れを通しまする、程なく銚子に香の物か何かを持出して、續いて吸物硯蓋と追々に運び出で女中の酌で庄八は一盃〳〵又一盃飲めども盡きぬ酒の味ひ別けて、庄八は如何に鯨飲致すとも一寸も亂れぬ人であるが、能く酩酊したやうに見せ掛け 庄『あゝ大きに醉ふた〳〵お前は此家の女中か名は何と申すかウーイ…… 女『きんと申します 庄『然う〳〵同役が申したつけ、和泉屋は金と申す女中が有つて、此女が座敷の取做しが極巧者であると斯う申した噂の如く客の取扱が上手ぢやの……ア、醉つた き『お嬲り遊してもこんな不器量者御用灯提と同じやうな者でございますよ 庄『御用灯提の何だか知らんが、乃公には小野の小町も跣足で逃[illegible]が過ぎるか怖いものだや……ア、此家へ野村作藏は來るかへ』とそろ〳〵作藏のことを問ひ掛けました き『旦那樣作藏さんを御存知ですか 庄『知て居ると申す程でもない、乃公は侍彼は名主身分が違ふから懇意と云ふほどではないが、併し役所向では折々見受ける男だ、彼も矢張この家に來て別嬪を買ふのか き『ハイもう夫れは每度の事でお愛と云ふのが彼のお方のお敵娼でございます 庄『ア、然うかもう一人萬八と云ふ奴も來るかへ き『オヤまア能く御存知でございますね、萬八と云ふ人も能く參りますよ 庄『彼も矢張一緒に遊ぶのか き『ハイ妾共の家ではあんな人には決して遊ばせないのでございますが、名主樣が連れて被入しやるので據ろなくお客に致して居りますけれどももう店の者は皆嫌がり切て居ります、手前共では博奕打は決してお客に致しませんと云ふのは、每度飲んだ上で喧

東京電報

▲清國派遣艦と勅令　十八日の勅令第五號を以て清國事變に關し同地方に派遣しある海軍准士官以下候補生に對し海軍大臣の定むる處に據り准士官以下候補生は俸給の十分の三以內下士卒雇人は俸給又は給料の十二分の二以上を支給せしむ

▲下院各派の大會　衆議院下に於ける各派は廿日夫れ〳〵大會を開き宣言書發表せり

▲政友會と所得税法　政友會政務調査會にては今期議會にて所得税法改正實行の決議をなせり

▲清國皇族の要求　皇族會議は退位條件として皇帝の名目を保存し皇室費五百萬兩を要求せり

北京特電

▲芝罘革命艦擧動　北伐軍司令官藍天蔚は海容艦に座乘し芝罘にあるも今回十五日間の休戰となりし爲め北上を見合せ艦隊亦動かず今日迄も芝罘に碇泊しをれるが今後の行動は未定なり

▲退位上諭內容　清國皇帝退位に關する上諭は今明日中に發表せらるべし而して上諭の內容なりと傳ふる所を聞くに『淸國皇帝は人心の趨く所に從ひ皇位を退き共和政府建設を承認す依て大統領を公選する迄は北京政府は南京政府と協商して便宜に臨時大統領を定めて國事を處理すべし』と云ふにあり

▲退位後の爭亂豫期　北京在留の內外人は皇帝の退位決行は最早時間の問題となりをれりと信じ其退位發表後北京に多少の爭亂は免かれざるべしと豫期しをれり

▲慶親王亦同意　前電北京朝廷の形勢日に非なるを憤慨しをりし慶親王も今日の場合皇帝の退位は支那全体の利益なりと觀念し皇族會議の席上之を公言し他の親王の反對あり議論沸騰せりと

▲慶袁兩者妥協　反目の間柄なりし慶親王と袁世凱との間に妥協なりし結果袁世凱 孫逸仙握手の機を早めたるものゝ如し

▲退位後の政府設置地　袁世凱は皇帝退位後天津に中央政府を組織し一切の政治を處理すべしと

▲退位反對運動激烈　宗室及禁衛軍等の共和政治反對運動日に激烈を極めつゝあり皇帝退位後は大騷亂起らん

▲禁衛軍の騷擾　皇帝退位の準備既に成れり唯上諭一片袁の手を經る時間あるのみにして滿朝上下並に禁衛軍の憂慮一方ならず或は爆發の恐あり今明日中最も危し

▲講和條件保障と獨　袁世凱は列國に對し革命軍政府に對する講和條件の保障を求めたるに獨逸は眞先に之を承諾せりと

雜報

●總督と民團税不承諾　寺內總督に對し京城民團が民團税を課する件は昨年中民會に於て決議し民長より[illegible]向つて[illegible]たる處如何なる都合にや總督は右民團税の納入を聞入れずとの事にて今次民會は結局免除する事に決議したり

●土地調査と說明　土地調査事業は漸次豫定の如く進捗しつゝあるが既に其豫定の地方は終了に近きたるを以て更に新たに調査區域を定むる事となり其地方に對しては豫じめ調査局より書記官等出張して十分に地主其他を集め土地調査事業の概略を說明する次第なるが昨今其說明終りたる地方は京畿道利川驪州、陰竹、忠淸南道温陽、稷山、大興、慶尙南道蔚山彦陽、梁山等の各郡にして尙引續き忠淸北道及忠淸南道の一部にも說明する筈なるが一部宛普通學校內に關係者及其他三四百名宛を集合せしめ所有權の觀念、所有權確認と地主の利益、租税の關係等土地調査の決して不用の事にあらざるを懇々說明するため一般に非常に好意を以て迎へられつゝあり

●內務部長に訓示　二十日午前十時より寺內總督は二時間に渉りて各道內務部長に對し自今朝鮮の開發は其施設と相待ちて產業經濟に重きを置く各員一層奮勵を要すとて農事水產、林業、畜產、商工、經濟等各細目に渉りて精密を極めたる訓示を爲せりと

●司令長官入京　出羽第一艦隊司令官長は二十日正午十二時半仁川より入京したり總督府よりは山縣武官出迎へ司令長官は土屋司令官大見副官等と同乘總督府海軍武官々舍に入れり

●總督艦隊幹部招宴　寺內總督には二十一日午後六時より官邸に出羽司令長官、秋山參謀長、松下參謀、關參謀、小栗大佐、鈴木大佐、高橋軍醫大監、松澤中佐、平山主計中佐、大見中佐、槙木主計中監、瀧那少佐、江口少佐、吉永少佐、小泉少佐等を招待し晩餐の饗あるべし

●出羽中將の訪問　出羽司令長官は二十日午後四時寺內總督を官邸に訪問したり

●上田軍司令官招宴　上田軍司令官は明廿日正午龍山官邸に於て入京中の出羽第一艦隊司令長官以下各艦長其他主なる乘組將校を招き午餐會を開くべしと云ふ

●鮮銀の落成式　豫報の如く朝鮮銀行落成式は二十日午後二時三十分より南大門通二丁目新行舍に於て擧行したり寺內總督上田軍司令官山縣政務總監を始めとし各部局長官並に高等官六等以上の各官吏及京龍仁に於ける重なる官民新聞通信員無慮一千余名出席各來賓は接待員の案內にて各室を縱覽したる後第一奏樂の合圖に一同は披露式場に入り市原總裁の挨拶に次で寺內總督は度支部長官を代理し鈴木司税局長其他の祝詞終つて三鞭の杯を擧げ式後第二奏樂を合圖に地下室並に倉庫等縱覽それより模擬店開始主客十二分の歡を盡して散會したるは午後五時なりし

●京城民會議事　既報京城民會は十九日午後三時より民團樓上に於て開會議案は(一)旭町一丁目民團役所隣接空地買收の件(二)民團税制整理案諮問の件にて(一)は坪數二百九十三坪價格一萬六千五百圓にて買收のことに可決し而して右買收に伴ふ四十四年の追加豫算を更正すること(二)は一應民長より說明するところあり議員は五日間の中に原案を翫味了解し其の上にて更に民會を開き討議決定することゝなし八時散會したりと尙居場問題は未だ當局との交涉決定せざるため附議せざりしとのことなり

●仁川期米昂騰　仁川に於ける米豆取引出來合中限及先限期米相場は漸次昂騰し去る十三日の出來合に係る最近相場は中限十三圓七十錢先限十四圓一錢の高値を唱ふるに至れり而して其原因は左の如し

△大阪期米相場の影響　去る十三日の大阪前場寄相場は當限十八圓四十七錢中限十八圓四十錢先限十八圓四十五錢なるを以て當地限米を買込み內地に移出するも尙幾分の利益あること

△拋穀の減少　買方の强味に伴ひ期米の昂騰するに係らず當季節の拋穀は豫想に反して頗る僅少なること

△鮮人米商の老熟　從來取引は內地人の獨占する所なりしが近來鮮人中手出を爲す者を生じて自ら商機を習熟し特に米價の昇騰を見越して買占を爲し買惜みを爲すこと

●忠南の蠶業獎勵　…菱田忠南道廳內務部長談…　明治四十四年度忠淸南道臨時恩賜金授產事業中公州郡外三十六郡共同蠶業傳習所の槪況を述べんに左の如し

▲共同蠶業傳習所　は公州、鴻山、洪州、天安の四ヶ所に之れを設け建物としては各地とも官有建物に應急修理を加へて之れに充て同年度に於ては未だ附屬桑園の設置を見るを得ざりしも其の公州に於けるものは種苗場及公州地方金融組合桑園に其他は道營苗圃地に桑苗を栽植し以て桑樹栽培に關する實習を行はしめたり而して其の設備に至りては各傳習所共に期日の接迫と經濟を旨としたる結果多少の缺點は固より免るべからざるも傳習に對しては何れも遺憾なく之れを實行するを得たるが如し即ち各傳習所共所長は所在地郡守を以て之れに充て生徒は各郡共應募者頗る多かりしを以て郡守に於て充分なる撰拔試驗を行ひ入所せしむるを得たるが其の生徒數は公州四十名、鴻山三十三名、洪州五十五名、天安二十八名計百五十六名にして內六名は自費生なるも他は悉く入所中一ヶ月三圓六十錢宛の食費を給與し居れり其の修業日數は百七十餘日にして又た

▲傳習方法　は專ら實用を旨とし傳習生を四組乃至五組に分ち各組に組長を設けて其の統一を計り學科は其の開所五月一日なるを以て九月上半迄栽桑法蠶兒飼育法製糸法等を課し實習は春秋の二期に於て春蠶上簇後に製糸を敎へ又た栽桑實習に至りては魯桑の播種桑樹の栽植除草中耕等其他蠶具の製作蠶室蠶具の洗滌等に至る迄全部實習せしめしが生徒は何れも聖恩に感激し倦怠の色なく皆勤せるもの七割を占め其の四ヶ所を通じての生產成績は掃立蟻量十九匁八六收繭量五石九斗九升製紙原料一石二斗二升四合製糸量九百七十七匁の好成績を擧げ生產品は目下道廳に於て之れを取纏め公賣處分中であり傳習修了生に對し其の修了後に於ける保護に至りては本道に於ては未だ之れに關する

▲特別の保護規程　なきも各郡授產金を以て購入の蠶具蠶種桑苗並に各苗圃の栽培の桑苗を配付するに當りては先づ傳習所修了生を先にし然る後一般希望者に及ぶ方針を採り又た彼等にして國有未墾地を利用し桑園設置を望むに於ては可及的便宜を與へ且つ其の成績優良なる者は將來設置せんとする面里の種蠶共同飼育所管理者に採用することに內定して居る扨て本事業の

▲人心に於る影響　は各所共日々の參觀者多く其の生產品を實視して改良種の優良なるのみならず一般農家の副業として有利なるを感知すると同時に技術の必要を認めたるものゝ如く蠶種の配布を希望する者增加せるを以て明年度に於ては各傳習所共平均一町步の附屬桑園を設置し栽桑法の實習と同時に一面廣く一般農民に配付の桑苗を養成し併せて栽桑の模範を一般に示す計劃である

●東拓移民渡來期　既報東拓會社第二回の募集移民は約五百戶にて人員二千名なるが右移民は愈々來二月より三月二十日迄の間に渡來することゝなり居るを以て會社にては案內準備のため下の關(停車場前中谷旅館)門司、釜山(本町一丁目中上旅館)に出張所を設け二十一日夫れ〳〵社員を派したるが尙馬山、木浦、群山の出張所にも案內所を設けたりといふ

●木浦紡績業計畫　朝鮮にての棉花會社の成行に就ては既報の如くなるが事實は當時記載の如く會社の成立は全然覺束なく而して昨年十二月創立委員某の配下なるもの木浦に來り棉花の狀況を調査したる由なるが之れが計畫は五十萬圓位の資本とし繰綿紡績等を爲すべく來春頃より着手すべしとのことなり因に木浦には現今三個所の棉花經營者あり內二個は個人經營にて一個所は在大阪朝鮮棉花會社の支店なりといふ

●忠南農作種子改良成績　忠淸南道廳にては昨春早生神力種、陸稻オイラン種等の稻種及び秋蒔麥小粒種、魯桑苗等の種穀を管內農民に配付し之れが栽培を獎勵したるが今其の昨年收穫時に於ける成績を聞くに神力種は一反步の收穫量平均玄米二石七斗五升にして在來稻一石六斗二升に比して一石一斗三升の增收あり陸稻は平澤郡內水利の便なく年々旱害を受くる地方に對して一町六反三畝の試作を行ひたるものなるが籾の收穫量二十六石七斗即ち一反步一石六斗强の好成績を示し秋蒔麥に至りては其成績未だ不明なるも魯桑苗は其の生育一般に良好にして且つ之れに依る蠶種の飼育狀態至極善良なれば本年は更に多くの此等種穀の栽培耕作を獎勵し農事上の進步を期すべしと

●鮮人勞働者の貯蓄勵行　獨立門外に於ける朝鮮活民勞働組合は鮮人勞働者の供給を計るものにして組合所屬の鮮人勞働者目下千五百餘名あり水道事務所日韓電氣瓦斯會社等へ多勢の供給を爲し居るが組合にては彼等鮮人勞働者の弊として勞銀を浪費するの風あるより會長阿部準助副會長加藤政吉兩氏監督の下に日々一人の勞銀中より一錢宛の貯蓄を勵行せしめ組合にて保管することゝなせしに結果良好にして其の金額既に數百圓に達したりと

公人私人

▲麻生逢(朝鮮銀行群山支店主任)十九日投原金
▲阿部秀太郎(同釜山支店支配人)同山本
▲仙波正太郎(同安東縣同)同上
▲鈴木源之助(同新義州同)同上
▲熊谷直亮(平壤居留民團長)同上
▲弓場重榮(朝鮮銀行馬山出張所長)同不知火
▲堀力太郎(商業)十九日出發仁川
▲松本健市(明治鑛業會社長)同釜山
▲大津誠吉(同技師)同上
▲石渡信太郎(豐國炭坑長)同上

●木浦民團の起債　木浦居留民團長高根信禮氏は同地民團立尋常高等小學校改築の件につき起債及び認可申請の爲め昨今入京中なるが右起債は五萬圓にて朝鮮銀行又は東拓會社の何れかに於て成立すべき見込あるも認可の是非は未だ決定せずとのことなり

●各道內務部長の阪程　各道內務部長は十九日を以て豫定の如く會議を終了したるが尙來年度豫算及恩賜授產事業等の打合せを要する爲め何れも數日間は滯京すべし

●河野武官の着任期　中山武官と更任したる河野武官は來る二月二日頃着任の筈にして同武官着任後中山大佐は事務引繼をなし四五日頃出發すへしと

●將校見學團に午餐　別記の如く二十日入京したる第一艦隊乘組將校四十餘名を寺內總督には京城ホテルに招待し午餐を饗したり

●艦隊參謀仁川民團訪問　第一艦隊參謀松本海軍大尉は二十日午前九時仁川民團役所を訪問せりと

●市中巡覽の艦隊員　仁川碇泊中第一艦隊の將校三十八名下士以下五百十四名は二十日午前八時五十分仁川驛發臨時列車にて入京市中各所を觀覽し即日歸艦せり

●京城府の面長協議會　京城府廳にては廿二日午前十時より管內各部面長の臨時協議會を開催すべしと云へり

●京城府普通學校生軍艦見學　京城府內に於ける總計九ヶ所の公立普通學校にては小素修學其他の貯金に充つる爲め生徒各自に貯金を奬勵實行せしめ居るが這回第一艦隊仁川港入港を機とし各普通學校の四年生全部二百余名右金を以て見學の爲め仁川に赴き軍艦の參觀をなすべしと

▲京城手形交換高▼

一月二十日	金高	枚數
	二一、二六三、一二〇	三六九

▲茶袋▼

朝鮮總督府が朝鮮米移出税を廢する事にしたのにも關はらず政府が內地への移入税を廢止せないのは一体如何云ふ譯だろうか、聞く所によれば外務省は廢税を至當としてをるも、大藏省が既に豫算に税額を算入してをるから今之を削除することは出來ぬと云ふ理由から反對をしてをるとか▲鮮米移入税廢止上豫算の更正は、左程手數の掛る程のものではない、僅か數分間を費せば出來る仕事である、其者への氣兼から躊躇してをるのでは在るまいか、さりとは意氣地の無い事である▲官界と云はず民間と云はず、我國程冗員冗費の多き國はあるまい、如何に俸給勞銀が廉いからとて、冗員を使へば冗費隨つて生じ結局は不經濟不生產に終るのである▲外國ならば一人で間に合ふ仕事に二人を使用し、屬吏で事足る所へ高等官を据て置くと云ふ風に數へ來たらば弊害や實に尠くない、これ官界のみならず實際の損益上出來得る限り冗員冗費を節すべき民間の會社に於ても然りである▲現に東拓會社の如き最も著しきもので、高給無用の重役役員がズラリと頭を並べ必要もなきに多くの部門局課を設けて徒らに機關を複雜にし事務を繁多にしてをるではないか▲行政整理に伴なひ東拓の冗員淘汰冗費節減亦現下の急務である。

懸賞論文募集

半島鑛業振興策

募集規定

一 懸賞金壹百圓
右は當選論文發表と同時に當該論文寄稿者へ贈呈すべし。

一 文章は論文体言文一致体何れにても宜敷成べく平易簡明なるを可とす。

一 當選論文の決定は本社爲め鑛業關係諸大家の審判に因るものとす、而して當選論文の數は一篇とす。

一 應募締切期限は來る三月一日とす

一 當選論文の發表は來る三月十日の本紙上に於て爲すものとす。

一 當選論文の發表は寄稿者の御希望に因り本名別名何れになすも妨げなし但し匿名を要せらるゝ方と雖本社に對しては住所氏名を明かに通じ置かるゝ事

一 募入論文は當選外のものと雖應募者へ返還せざる事。

趣意

熟々思ふに、世人が我半島鑛業の有望なるを說くことや久し、而かも其有望なるを說かるゝ割合に、過去及び現在に於て、斯業の大發展を見ざるは何が故ぞ。總督府の鑛業行政其宜しきを得ざるか、鑛業用の金融機關缺乏せるか、斯業指導の任に當るべき專門技師缺乏せるか、鑛業勞働者の熟練不足せるか、鑛山發見者及經營者と資本家との連絡其宜しきを得ざるか、或は製錬冶金に要する燃料不足せるか、將亦た鑛山關係運輸交通機關の設備不足せるか、兎にも角にも大發展を爲すべき我鑛業が現在の如き不振の狀態にあるは蓋し何等かの理由と源因とを有せずんばあらず。今や貿易上移輸入の超過は昨四十四年に於て三千萬圓を算し、今後每年引續いて此現象を見んとす、當局官憲大に之れを憂へ、米穀其他の移輸出税を撤廢して移輸出額の增さんことを圖り兼ねて行政費を節約し、其得るところを以て產業獎勵の資に充てんとす、之れ吾人の意を得たるものなり。然りと雖ども茲に一考すべきは從來半島の產業獎勵と云へる多くは農水兩產物の增加と解せられ鑛產物の增加に至つては左程に重要視せられざりし事なり。我度支部の所報に曰ふ、昨明治四十四年に於ける半島鑛產物の移輸出高は金銀銅鐵黑鉛石炭等を合せて一千十五萬餘圓にして彼の農水產物其他を合せたる全移輸出高中實に二分の一を占む、茲に於てか思ふ、鑛產物の移輸出や、比較的斯業不振の今日に在つて前記の如し、故に若し我官民にして勃然起つて力を斯業の振興に傾注せば現在の移輸出高を二倍三倍爾り十倍と爲す敢て難事にあらざるべし。吾人は信ず、我半島諸鑛物の寶庫にして適當に開かれんか、其豐富なる移輸出額は現在の移輸入超過狀態を一變し經濟財政共に好調となり、庶幾くば萬民均しく其幸福を享受し、總督政治亦た圓滿に行はるゝことゝならん。本社が賞を懸けて鑛業振興策を募集するの趣意豈に他あらんや、只夫れ我半島の鑛業振興に關し微力を致して其資に供せんとするのみ、希くば世間幾多の士人本社の微衷を諒とし平素の懷抱を傾倒して吾人の擧を扶けられんことを

謹白

京城新報社

妾は浮氣旦那は野暮

[illegible]

南山町揃翠樓に花蝶と云

[illegible]

江戸ッ見曾我勉君は

[illegible]

十圓を中村さんから引出

[illegible]

落籍は南山町二丁目に圓

[illegible]

水席よりいろは名乘 再び左褄取

[illegible]

若遊三が正月も當地で興行こと 馴染の三遊亭

[illegible]

好人物に膽を据へ例の拠 遊三もれ客樣

[illegible]

十日夜南大門出發

[illegible]……野暮だね』と尤だ

駄々羅大盡正誤

[illegible]より下の如く正誤申込みありたり

本月十八日貴社發行京城新報第八百六十四號雜報欄內當世駄々羅大盡さ題する記事は事實大いに相違致居候尤去拾四日夜は店員及三四の知己を招き自宅に於て新年の小宴を催し候處多數店員中酒興に乘じ二三の者は敷島遊廓に至り遊興したるは事實なるも拙者が店員と共に登したるが如き事實は斷じて無之又遊興費に就ても些かに五拾圓以內にして事實相違致居候甚だ迷惑の次第に付何卒御正誤相成度此段得貴意度候也 仁川花房町二丁目 三宅宏一郎印 京城新報社御中

●東部の鮮人强盜

▽刺肉庖刀にて脅迫

十八日午後六時半頃東部仁昌面龍頭里七統七戸雜貨商貞植方留守宅に二名の鮮人强盜表門の戸締りなきを幸ひ內房に闖入し留守居せる同人の妻外二名を縛し上げ刺肉庖刀を以て脅迫し生命巾十九尺外雜貨數點價格十五圓餘を强奪逃走したれば部へに接し東部署にては即刻非常線を張りて犯人逮捕に努めたるも未だ縛に就かず目下嚴探中

●仙友雅會大會

同會は在京各種の雅人名士を網羅して娛樂の中に精神的趣味の向上に努めつゝありしが今回春季大會を二十一日正午より旭町一丁目料亭白水に開催し各會員の圍碁將棋點茶生花席上揮毫絹紙本出品書の福引等催しありて晩餐を共にすと云ふ尙今回は會費特に三圓當日持寄何人も入會隨意なり

●消防手と醉看守

京城監獄分監看守宮崎美勝（四七）は泥醉して十九日夜市中巡警中なる仁川常備消防隊消防手金鼎鎬を捕へ亂暴を働きたるより花町派出所に引渡され本署に引致されし由なるが消防手の言分のみも當にならず或は彼が宮崎の亂醉せるに乘じ不埓の言動ありたる爲にあらずやと言ふものあり

●高櫻の鮮人掏摸

住所不定鄭春實李文五の二名は高櫻風を裝ひ京龍仁方面を徘徊し掏摸を常習の犯人にて其筋の搜査人物なりしが十九日午後二時半頃南山町一丁目清水席前街路に於て日本人の懷中を掏取らんとして發覺され一應現場を逃走し再び清水席前を徘徊中を南部署川副刑事が逮捕目下取調中

●醬油二樽を呑む

當地大和町三丁目廿四番戶牧野方山口縣人古谷清次（二三）は昨年十月より前田酒店に雇れ數日前解雇せられしが前田酒店の名を利用し明治町一丁目醬油店小谷清三郎方より醬油二樽（代八圓）を詐取したること發覺し南部署に告訴され目下取調中

●逃て來て逃げる

東京市神田區和泉町一番地柴山治一郎同町立山喜三郎は大連に於て橫領詐欺取財を犯し逃走し當京城に入込み長谷川町下宿松屋に投泊の形跡ありとて大連民政署より逮捕方南部署に照會し來りたるを覺り行衞を晦したるより目下搜查中なりと

●青年會の大弓場

當地大和町基督教青年會運動部にては今回同所構內に大弓場を設け二十一日午後二時より道場開きをなす由なり

●入質

本町五丁目前山組車夫仁井名嘉助（四〇）は昨年十二月十日以降同組車夫鈴木米藏外數人の毛布を入質したる事南部署に告訴され目下取調べ中なり

●勤續店員の略歷（四）

二十日京城日本人商業會議所に於て京城各商店の店員中滿五ケ年以上の勤續者の表彰式を行ふこと既報の如くなるも都合により來る二十五日擧行のことに延期されたるが引續き左に表彰さるべき諸君の略歷を列記せんに

▲黑川磯八君 長崎縣西彼杵郡浦上山里村の人明治元年生れである三十七年七月渡鮮して大和町一丁目平山政十氏の店に入り陸軍用達部を擔任して今日に至るカトリック敎會の熱心なる信徒で云ふまでも無く誠實な人である

▲島田喜三郎君 三十七年四月南大門通りに丁字屋洋服店が支店を設置すると同時に主任となつて來た人和歌山縣東牟婁郡新宮町の生れで今年が三十一歲になる外交に巧みなのと店務整理に長じてゐる

▲井上宗次郎君 福岡縣八女郡光友村兼松の生れ當年二十三歲である三十八年一月渡鮮して本町三丁目龜屋商店に入り滿五ケ年以上を勤續した顧客に叮嚀なばかりでなく頗る同情心に富んでゐるさうだ

▲財間才一君 本町二丁目辻屋商店に三十七年十一月から勤續してゐる廣島縣御調郡中庄村の人で本年二十二の春を迎へたばかり簿記が達者で珍らしい健闘家だ相である

▲森田幸吉君 岡山縣岡山市古京町の產本年二十四歲本町三丁目龜屋商店に入つたのが三十八年の三月で無事に五ケ年以上を勤め上げ目下は東拓群山出張所に勤めてゐる

●佛罰

住所不定金三鉉（四九）安昌鎬（五三）金啓洛（三二）の三名は共謀して數十ケ所の寺に忍入り佛像を竊取賣却したること南部署刑事に探知され目下取調中

●木取

北部黃土峴三間洞金俊五（五三）は廿日午前十時頃本町八丁目湯淺辰一郎方にて松板一枚を竊取し目下取調中

●高野山の初大師

新町高野山に於ては本月二十一日午後二時月並御影供を修し說敎法話等ある筈因に本月は初大師の緣日なるを以て參詣者一般へ善哉の接待あるよし例年の通り定めし參拜者も多からん

日曜集會

●日本基督敎會 旭町四丁目の同敎會にては二十一日午前九時より日曜學校午前十時半、午後七時半の二回說敎あり說題左の如し 井口牧師
（朝）三種の法則
（夕）未定

●メソヂスト敎會 旭町二丁目同敎會にては午前十時より日曜學校、午前十一時午後七時半の二回說敎あり說題は 橋本金太郎氏
（朝）善牧者 藤岡牧師
（夕）未定 同

●微笑會 午前十時より初音町臨濟寺に於て圓山太嶺老師の碧岩集例會提唱あり

●京城基督敎會 南大門內相生町同敎會にては本日曜日午前十一時より禮拜說敎午後七時半より傳道說敎あり
（朝）靈活の宗敎 渡瀨牧師
（夕）危機脫出の曙光 同牧師

◎花柳界だより

四方の旦那樣方には木枯荒ぶ冬の夜も御厭ひなく通ひ廓の新町へ御み足を運ばされ御蔭を以てお茶引く暇とてもなき繁昌の段樓主帳場は申すまでもなく妾共を初め仲居の名々佬は板場の節さんから風呂焚きの■ボに至る迄難有仕合に奉存候尙此上ながら南山の松の緣の千代かけて幾久しく御愛顧の程願上タテマツリ候とは等之助が妓共衆一同に代りての御挨拶▲清進樓の新妓手枕とは少々變な命名だが然し稼業柄當を得たる藝名ならんか、思ひ合ふたら枕は不用なれど、月並な口說を並べ立ては互ひの手枕にて一夜を語り明かすてな此處等が極意の思ひ附きなるべし▲大桝屋にて二枚の春伊多此れも一寸可笑い藝名だ『すいた男に妾しや命でも』と明烏の時さんの樣な色男が出來たかと聞けば昨日今日來た斗りでそんな人は欲くつてもないわと無邪氣な事を仰云つてゐる、本月はお職で同樓切つての美形、瓜實顏の色の白い處は如何にもすいたらしい顏色▲京城樓小千代（十九）溫順で可憐な姿は先づ同樓中の美形『妾從來東京で藝一本であつたわ、此娼賣は此れが初めてよ面白いだろふつてアラ厭な事よ』なぞゝまだ勤め馴れぬ初心な處が此妓の可愛らしいところ▲井門支店の富士枝、雪の中に三年も頑張んでいたかと思ふ程の色の白、依然と二十貫の體格は昨今の炬燵代り例の完爾々々顏で不相變愛嬌を振り蒔いている、此頃にては勤めの憂さ晴しには毎日〇〇〇〇番へ電話をかけて獨り嬉しがつているとの事▲清月樓の環、容貌は好いが苦勞馴れぬ故か愛嬌に乏しいから比較的振はないとは突出し當時の噂であつたが此頃にては至つて口前も氣前も輕くそして或方面も……其邊はごれだか兎に角打つて變つた愛想振りに一度見限つた客までが後戻りをする有樣、此勢力では頓同樓の全盛疑ひなし（帶之助）▲提灯斗り點けるない（鄙客）

●演藝だより

●壽座 二十一二十二兩日の代狂言は前『桶狹間合戰石川五右衞門傳』切『八百屋お七』八百屋より半鐘塲まで

平民文庫

▲李王家の空馬車が十九日の午後本社前で損所を生じ空地の鐵條網へ乘りかけて大騷動をして居た用もないのに廣くもない往來を空馬車で驅けずり廻る馭者輩の了見が判らない（給仕）▲朝鮮銀行の移轉の騷ぎつたらない本町通を金庫をゴロ〳〵轉がして、ゴロ〳〵轉がり步行せる金庫、輕さ加減は押して知るべしだ、朝鮮銀行では無くてチウセンピンボウだ（通行人）▲山根正次とか云ふ男は確か醫者だと思つて居ましたが何で總督府の囑託に成つたのですか總督府には醫博士が何人となく居る筈ですのに、山根程國家衞生とか都市衞生とかに通じて居る方が無い所爲ですか（伺度生）▲總督府へ問合せなさい（係）▲田中守平と云ふ男は誇大の廣告を堂々御用紙に掲載して居るが當局官憲には彼の廣告文が誇大と見ねぬのでしょうか（醫學士）▲一合の酒の呑めぬ人もあり一斗の酒に醉はぬ人もある（小僧）▲去る十四日の貴紙に浪花館總見雜觀の中に元揃翠の花蝶を度支部の藤原正文樣が落籍さした樣に記載してありましたが夫れは御間違ですよ即ち江戸ッ見の曾我勉さんが大熱々で通い詰めたあげくに大枚投出して落籍さしたのですそして世間の體裁上極く內秘にして東京に遣し置き昨年九月又呼寄せ大和町にかこい毎日通て居たですが如何なる都合にてか十一月頃から淸水席から出ることになりたのです相變らず大熱々です藤原正文樣なんて間違て載られたら家庭がもつれますよ（無名女）▲御親切忝けなし併し正文樣も滿更江戸ッ見御存じない方でも有りますまい（其係り）▲淸月樓の文之助君へ告ぐ江戸子の〇〇君は百八十度の熱度で首丈ですよ夫れが爲家庭にゴタゴタが起つて居そうですが少しは君も男の身も考てやりたまい（同情生）▲十九日の午前八時四十一分[illegible]驛の[illegible]列車が今や發車せんとする時に一輛の人力車が駈け付けた車上の客が待合室に入り續いて車夫が暖爐の傍に手を温めてゐると驛員が來て『貴樣の這入るところぢやない』と讀へながら車夫を蹴で蹴飛ばしたので大騷ぎを演つた（傍觀者）